

「クリスマス、おめでとう」

2014年12月25日

クリスマス、おめでとうございます。今日は、主イエスのご降誕日です。クリスチャンにとって、私の救い主・キリストがお生まれになった日ですから、最も嬉しい日です。クリスマスは「キリスト」と「マス・礼拝」の合成語で「キリスト礼拝」という意味です。キリスト礼拝は、主の日毎に行っていますが、クリスマスは主イエスのご降誕を指すようになりました。4世紀頃から、クリスマスが祝われるようになったとされています。歴史的根拠はないのですが、12月25日と定められました。冬至に近いこの頃、ローマで太陽神の祭りがありました。教会は、これに対抗し「義の太陽」として、主イエスのご降誕日にしたようです。教会は時代との関わりの中で、キリスト教を主張したのです。今や、キリスト教とは関係のない人々もクリスマスを楽しんでいます。

代々の教会は主イエスのご降誕を喜び感謝し、美しい讃美歌、心温まる童話、楽しい飾りなどを作って祝ってきました。主イエスのご降誕に込めた人々の篤い信仰が伝わってきます。クリスチャンは皆、クリスマスの思い出を沢山持っていると思います。

私のクリスマスは一步遅れた受洗という思い出です。高校3年生の夏頃から、教会に行き始め、聖書のメッセージに心を惹かれていきました。自分自身を受け入れられず、苦悩に満ちた社会に深い絶望感を抱いていました。その私に聖書から、全能の神に位置づけられた私の生があり、主イエスに現された素晴らしい愛を知らされました。これを信じるならば生きることができると大きな喜びをもって受け止めました。そして、生きる勇気と希望を与えてくれた喜びを伝える牧師になろうと決心しました。神学校の受験資格は受洗して1年以上の教会生活をした者と聞いて、今年のクリスマスに受洗しなければ、2年間浪人しなければならない。クリスマス礼拝の前夜、牧師に電話して、受洗を申込みました。明日の礼拝後、役員会を開いて決めましょうという返事でした。洗礼は私と神との関係だけではなく、教会の交わりの中での出来事であることを知りました。翌週、年の終わりの主の日に洗礼を受けました。私の新しい人生の始まりでした。つまずきながらも、牧師になろうとひたすら歩んできました。青春時代の虚無感は、今も深くありますが、神の導きに与り、立たせてくださったことに心から感謝しています。クリスマスを迎える度に、一步遅れた受洗を思い出します。以来、私は一步遅れる癖がついたようです。

クリスチャンのクリスマスは主イエスのご降誕の出来事に目を注ぐことです。それは、マタイとルカの二つの福音書に書かれています。これらの記述は歴史的事実ではなく、全て神話的表現です。その神話的表現の中に、主イエスの生涯とその意味が込められています。マタイ、ルカ福音書の著者たちは、自分の信仰をベースに、旧約聖書、当時の時代背景などを織り込み、壮大なスケールで、主イエスご降誕のメッセージを描き出しています。

主イエスは、おとめマリアより生まれました。偉人の出生には、このような奇跡物語がよく見られます。両福音書は人間の関係ではなく、全能の神が関わった出生であると告げています。その主イエスは家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に布にくるまれて寝かされた。輝かしい王宮ではなく、人から締め出された貧しい所で生まれました。そして、蔑まれていた羊飼いたちに最初のクリスマスを祝う栄誉が与えられた。主イエスのご降誕によって、暗闇に光が差し込み、疎外されていた人々に大きな喜びが示された。クリスマスは「飼い葉桶から十字架」までの苦難の道を歩まれた主イエスの愛によって罪びとが赦され、神と共にいる「インマヌエル」が実現したことを感謝し、神を賛美する日です。